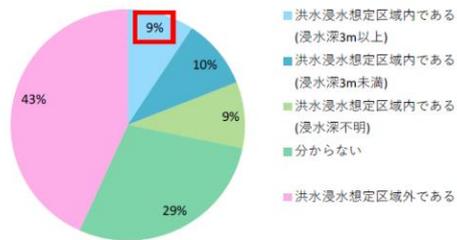


令和5年度
静岡県西部・中東遠地域大規模氾濫減災協議会
遠州流域治水協議会

河川管理高度化の取り組み

河川管理高度化の取り組み

【課題】 防災情報認知度・理解度の低さ、正常性バイアスによる避難率の低さ

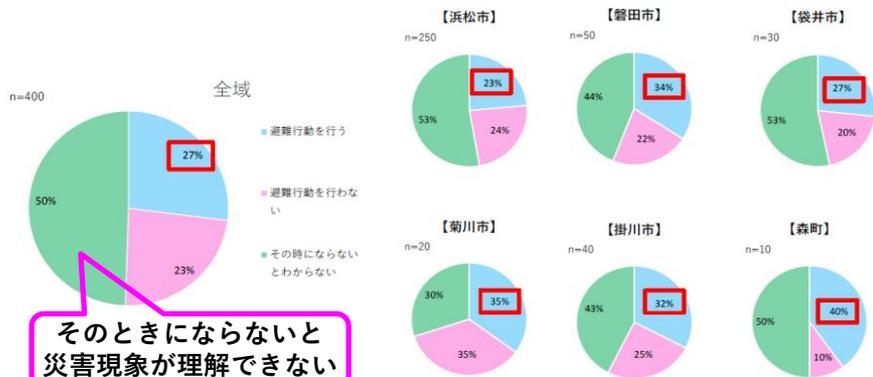


対象6市町の実際に洪水浸水想定区域に住んでいる人口の割合と比較する
(区分: 浸水深3m以上、浸水深問わず)

種別	アンケート	実際	住民の認知度
① 浸水想定区域 (浸水深3m以上)	9.3%	46.3%	⇒ 20% (=9.3%/46.3%)
② 浸水想定区域 (浸水深問わず)	28.3%	61.9%	⇒ 46% (=28.3%/61.9%)

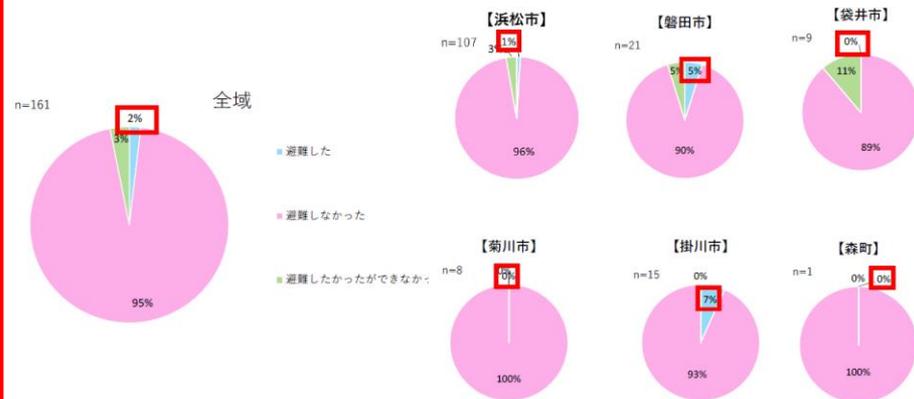
想定浸水深3m以上に住む住民の想定浸水深の正しい認知度は2割程度である。
また、浸水想定区域内に住んでいる浸水区域内外の認知度は5割以下である。

設問: お住いの地域に、数日後に台風が直撃し洪水が発生すると予想される時に何らかの避難行動を行いますか? ※避難所への避難だけでなく、垂直避難、知人宅などへの避難を含む

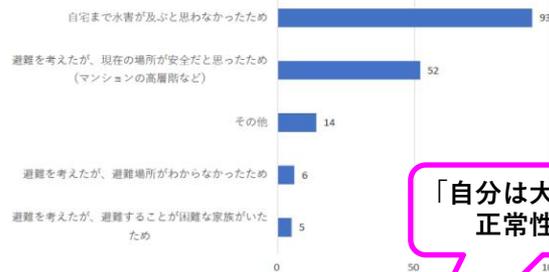


そのときにしないと災害現象が理解できない

避難行動を行うと回答したのは全体の27%であり、その時にしないとわからないと回答したのは全体の50%である。



避難情報を認識していた回答者の中で、実際に避難行動を行ったのは全体の2% (3人) である。(浜松市・磐田市・掛川市で1名ずつ)



「自分は大丈夫」という正常性バイアス

【その他の意見 (抜粋)】

- ・ ペット同伴可の避難所が近くにあるか、わからなかったから
- ・ 避難場所までに川があり危険だった為
- ・ 土砂降りの中避難する事ができないため
- ・ 夜だったから
- ・ 避難所が浸水にあった

避難しなかった理由で「自宅まで水害が及ぶと思わなかったため」と答えた回答者が最も多く全体の58%。次に、「現在の場所が安全だと思った」が全体の33%である。

避難行動を促すためには、災害リスクの認知度・理解度の向上が必要 → 情報提供ツールの高度化

河川管理高度化の取り組み

【情報提供ツールの高度化の検討】

① 3D浸水ハザードマップ表示



3D 浸水ハザードマップのメリット
 ■ Google Earth を活用し、浸水状況を色々な角度・遠近で描画することができる。

携帯のGPS機能と連動して自分の位置を特定することができるため、浸水リスクを認知することができる。

② 洪水AR

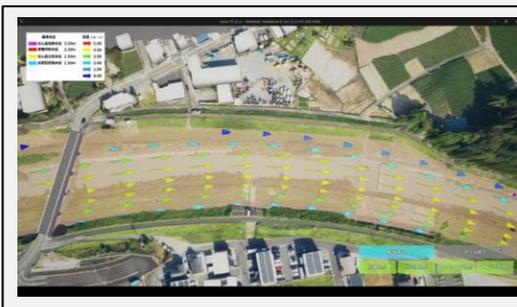


ARのメリット

■ 疑似体験により、危険性を理解しやすい

菊川周辺の近隣の小学校等で防災教育の一環として、洪水ARを体験して頂き、浸水状況を理解して、防災意識の向上を目指す取り組みを進めていきたい。

③ 流況の可視化



流況の可視化メリット

■ 流況シミュレーションの結果を立体的に表現することができ、各地域や危険箇所での水位上昇や流況を分かりやすく表現することができる。

洪水時の効果的な防災支援や河川管理の高度化につながる。

【活用イメージ】



HPでの公開イメージ



防災教育(水害)



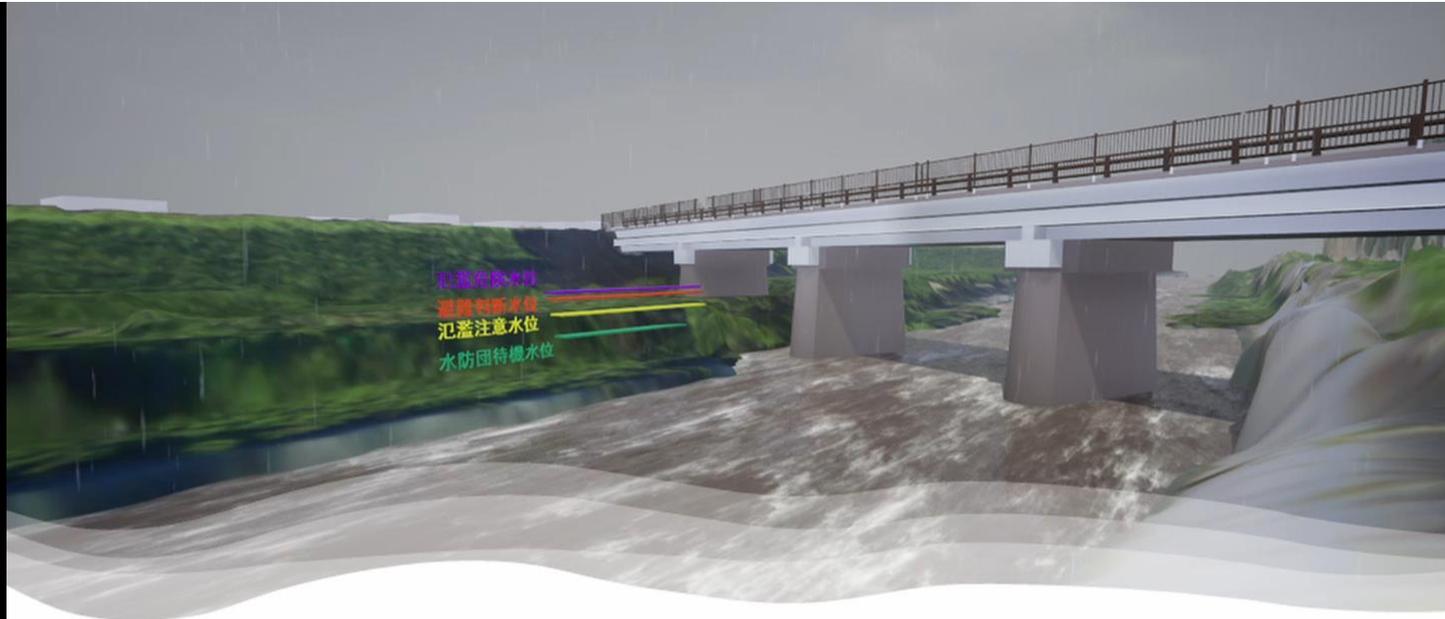
災害予測ツールの開発



事業効果の見える化

等々

【高度化ツール紹介動画】



菊川VR空間への
iRICによる流況解析結果の表示